

業績目録

注：著者名は全員を記し、応募者にはアンダーライン、論文の **corresponding author** には*を付すこと。また投稿中論文は記載しないこと。印刷中の論文については正式な採択通知書のコピーを同封できる場合に限って記載が認められる。業績目録作成にあたって以下の業績等のサンプル記入例を参考にすること。記載順は、直近の年代の論文から過去に遡って記載すること。英文原著論文・総説・症例報告については掲載誌の最新の **impact factor (IF)** 及び当該論文の被引用回数 (**citation; Scopus** による最新データ) を記すこと。

I. 英文原著論文

1. Oe Y., Honjo E., Kuhonji T, Kumamoto T., Tsubame S., Mizuo T., Sakura H., Shirakawa K. & Kurokami T.*
PKC is activated by the cell-matrix interaction via CD44.
J. Cell Biol., (2019) in press. [IF, 8.784; citation, 0]
2. Honjo J.* & Kumamoto T.
Progression of tumor cells by H-Ras oncogenic signaling.
Proc. Natl. Acad. Sci. USA 108, 9-10 (2018). [IF, 9.504; citation, 10]
3. Kumamoto T.,* Honjo J., Oe Y., Kuhonji T. & Kurokami T.
Signal transduction in the cell differentiation.
Nature 483, 456-789 (2013). [IF, 41.577; citation, 300]

II. 英文原著論文の数、IF の総和および引用回数まとめ

注：記入例に従い、総論文数、1st author、2nd author、last author、corresponding author および、それ以外の共著者の論文数を記載すること。印刷中の論文については、I に記載したものに限って記載が認められる。1st author でかつ corresponding author である場合や last author で corresponding author である場合などは、corresponding author として扱い、重複して記載をしてはならない。IF の合計点、*selected IF の合計点および引用回数についても記載すること。また最近 5 年間 (in press も含む) の掲載論文についても () 内に、最近 10 年間の掲載論文について 【】 内に記載すること。

ただし、最近 5 年及び 10 年以内に産前産後の休暇又は育児若しくは介護（以下「育児等」という。）のための休業を取得した期間及び育児等のための短時間勤務を行った期間がある場合は、最近 5 年及び 10 年に、当該期間に相当する期間を遡って加えた期間の掲載論文について () 内及び 【】 内に記載すること。IV、VI び XV においても同様とする。

*Selected IF: 申請者が 1st author, 2nd author, last author もしくは corresponding author である論文の IF。

記入例

原著論文総数
100 (35)【48】

1st author 論文数	2nd author 論文数	Last author 論文数	Corresponding author 論文数	それ以外の 論文数
20 (7)【10】	20 (10)【15】	20 (5)【6】	10 (5)【7】	30 (8)【10】

IF の合計点	Selected IF の 合計点	引用回数の 総合計
350 (200) 【220】	212 (167)【200】	852

産前・産後休暇	育児・介護のための休業	育児・介護のための短時間勤務
令和○年○○月○○日 ～ 令和○年○○月○○日 (××か月××日)	令和○年○○月○○日 ～ 令和○年○○月○○日 (××か月××日)	令和○年○○月○○日 ～ 令和○年○○月○○日 (換算日数※：××日)
上記期間の合計 年 月 日		

※換算日数は、育児・介護等のために勤務しなかった時間を累積し、7 時間 45 分で除して得た値（この値に 1 日未満の端数を生じたときは 1 日に切り上げる。）とすること。

Ⅲ. 英文総説

1. Honjo J., Kumamoto T.* & Kurokami T.
Regulation of cellular proteins via ubiquitin-proteasome system.
N. Engl. J. Med. 345, 9-10 (2014). [IF, 79.260; citation, 500]
2. Kumamoto T.*
Stress response in neuronal cells.
Nat. Rev. Mol. Cell Biol. 1, 23-45 (2011). [IF, 35.612; citation, 600]

Ⅳ. 英文総説論文の数、IF の総和および引用回数のまとめ

注：記入例に従い、総論文数、1st author、2nd author、last author、corresponding author の論文数を記載すること。印刷中の論文については、Ⅲに記載したものに限って記載が認められる。1st author かつ corresponding author である場合や last author で corresponding author である場合などは、corresponding author として扱い、重複して記載をしてはならない。申請者が 1st author、2nd author、last author、corresponding author である英文総説の IF の合計点および引用回数についても記載すること。また最近 5 年間 (in press も含む) の掲載論文についても () 内に、最近 10 年間の掲載論文について 【】 内に記載すること。

記入例

総説論文総数
13 (8)【24】

1st author 論文数	2nd author 論文数	Last author 論文数	Corresponding author 論文数	それ以外の 論文数
7 (4) 【8】	3 (1) 【5】	1 (1) 【3】	1 (1) 【3】	1 (1) 【5】

IF の合計点	引用回数の 総合計
70 (55) 【60】	100

Ⅴ. 英文症例報告

1. Kumamoto T.* Honjo J., Oe Y., Kuhonji T. & Kurokami T.
A case of type A insulin resistance with insulin receptor gene mutation.
N. Engl. J. Med. 340, 20-22 (2016). [IF, 79.260; citation, 50]

Ⅵ. 英文症例報告の IF の総和

注：記入例に従い、申請者が 1st author、2nd author、last author、corresponding author である英文症例報告の IF の合計点についても記載すること。また最近 5 年間 (in press も含む) の掲載論文についても () 内に、最近 10 年間の掲載論文について 【】 内に記載すること。

記入例

IF の合計点
0 (0) 【0】

VII. 邦文原著論文

1. 熊本太郎. 組み換えタンパク質の発現効率の制御に関する研究.
生化学 85, 124-132 (2018).

VIII. 邦文症例報告

1. 熊本太郎, 本荘次郎
糖尿病ケトアシドーシス発症時の症例.
糖尿病 56, 80-85 (2017).

IX. 邦文総説

(注：全国規模の学会誌などに、申請者の研究成果を中心に当該分野の現況などについてレビューした、特に重要なもの等に限定して記載のこと。)

1. 熊本太郎. 組み換えタンパク質の研究についての展望.
生化学 84, 985-993 (2017).

X. 著書

1. Oe Y., Kuhonji T, Tsubame S., Mizuo T., Sakura H. & Kurokami T.
Alzheimer's disease and stress gene expression.
In Alzheimer's Disease, Annals of Neuroscience, Vol. 123
(eds., Honjo J., Oshiro G. & Shirakawa K.), Kumamoto Academy of Medical Sciences,
Kumamoto, p. 456-789 (2017).
2. 熊本太郎
組み換えタンパク質
新医科学実験講座 23 (医科学会 本荘次郎 編), 化学同人 (熊本), p. 456-789 (2009)

X I. 招待講演 (シンポジウムを含む) (国際学会)

1. Kumamoto T.
Regulation of autophagy in human cells.
The 10th International Conference on Human (2018)

X II. 特別講演・宿題報告・教育講演・指名講演など (国内学会)

(注：全国規模の学会に限定し、企業主催のセミナー・講演会などを除いたものを記載のこと。)

1. 熊本太郎, 本荘次郎
フォスファターゼと活性化機構
第 123 回 医学生物学シンポジウム (2016)

X III. シンポジウム発表など (国内学会)

(注：全国規模の学会に限定し、企業主催のセミナー・講演会などを除いたものを記載のこと。)

1. 熊本太郎，本荘次郎
フォスファターゼと活性化機構
第 123 回 医学生物学シンポジウム (2018).

XIV. 競争的研究資金の獲得状況

(注：過去に獲得した競争的研究資金について、研究代表者・分担者分をそれぞれ文部科学省科学研究費補助金、その他の省庁研究補助金、財団等補助金別に配分資金（直接経費）を記載のこと。なお、研究分担者分については分担者への実際の配分額を記すこと。また、間接経費の交付がある場合には、その配分額を明記すること。)

研究代表者分

文部科学省科学研究費

1. 平成 27～30 年度 基盤研究(B) 15,000 千円（間接経費 4,500 千円）
タンパク質リン酸化と活性化機構
2. 平成 28～30 年度 基盤研究(A) 30,000 千円（間接経費 9,000 千円）
神経変性疾患と遺伝子治療に関する研究

その他の省庁研究補助金

1. 平成 27～30 年度 厚生労働省科学研究費
がん克服戦略研究事業 50,000 千円
細胞のイメージングと分子標的治療

財団等補助金

1. 平成 27 年度 特定研究助成金 2,000 千円
細胞ストレスと薬剤耐性化に関する研究

研究分担者分

文部科学省科学研究費

1. 平成 27～30 年度 基盤研究(B) 1,000 千円（間接経費 300 千円）
幹細胞の分子機構に関する研究（研究代表者 黒髪太郎）
2. 平成 28～30 年度 基盤研究(B) 0 千円
低酸素応答に関する研究（研究代表者 大江良子）

その他の省庁研究補助金

1. 平成 26～30 年度 厚生労働省科学研究費
がん克服戦略研究事業 5,000 千円
多剤耐性がん細胞に関する研究（研究代表者 黒髪太郎）

財団等補助金

1. 平成 30 年度 日本糖尿病財団研究助成金 500 千円
細胞ストレスに関する研究（研究代表者 黒髪太郎）

XV. 競争的研究資金の獲得状況のまとめ

注：記入例に従い、総獲得額、研究代表者としての直接経費獲得額、研究分担者としての直接経費獲得額、最近5年間（内定を含む）の直接経費獲得額、研究代表者としての直接経費獲得額、研究分担者としての直接経費獲得額を記載すること。間接経費の交付がある場合には、（）内にその配分額を記載すること。

記入例

直接経費の総額（間接経費）	研究代表者としての直接経費獲得額（間接経費）	研究分担者としての直接経費獲得額（間接経費）
200,000 千円（40,500 千円）	150,000 千円（40,000 千円）	50,000 千円（500 千円）

平成 27～31(令和 1)年度の直接経費の合計（間接経費）	平成 27～31(令和 1)年度の研究代表者としての直接経費獲得額（間接経費）	平成 27～31(令和 1)年度の研究分担者としての直接経費獲得額（間接経費）
100,000 千円（25,300 千円）	80,000 千円（25,000 千円）	20,000 千円（300 千円）